

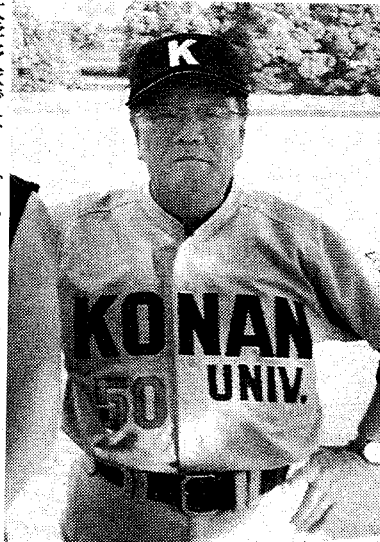
兵庫の大学野球界に貢献

故田中博人さん 元甲南大監督、75歳

対話を重視する人だった。64歳の2000年7月、32年ぶりに阪神大学野球リーグの甲南大監督に就任。「常に対話を持って選手それぞれが納得して練習に取り組む」ことを念頭に置いた。

兵庫県大学野球連絡協議会の田中博人（ひろひと）代表が死去した。葬儀は近親者で執り行われ、10月6日に神戸市東灘区内で行われた。お別れの会に野球関係者ら110人が参列した。1936年、神戸市垂水区出身。兵庫高校から甲南大経済学部に進み、丸善石油（現コスモ石油）入社。営業関連業務に携わり、管理職を経て関連会社の社長を務めた。

高校、大学、社会人を通じて野球部に所属。高校時代は三塁手で鳴らし、阪神大学野球ではリーグベストナインに選ばれた。兵庫高、甲南大で主将を務めただけでなく、その後、監督も務めた。兵庫高の青年監督時代、夏の兵庫大会が甲子園球場でもあった。グラウンドが広く、ベンチから打席まで距離があったので白い手袋を着用した。「サインは選手に伝わらなければ意味がない。相手に見られてもいい」という監督の言葉を、当時選手だったNPO法人兵庫経営塾の牧之内良昭専務理事（69）は覚えており「コミュニケーションを大切にしていたと回想する。元監督は同法人理事長に推薦された。



甲南大硬式野球部の監督を2度務め、兵庫の野球界に貢献した故田中博人さん（遺族提供）

05年に硬式野球部のある県内13大学による初の交流戦を主催。PRなど粘り強く関係先を回り、複数の交流大会が生まれた。10月20日に関西六大学野球リーグで28年ぶりの優勝を果たした神院大の福島康徳監督（56）は「部員が幅広く公式戦に出られる機会が増えた」と意義を語った。

6月中旬に神戸市西区であった兵庫グランドOB親睦野球大会の大会会長を務めた。前立腺がんを患い、神戸市中央区内の病院で8月27日午前0時30分に死去。享年75。戒名は「慈球院釋博穩」。現場で兵庫の野球界に尽くした。

（山中英夫）



「学生野球に恩返しをしなかった」。県大学野球連絡協議会代表となり、20